

今、なぜ私たちには ダイアログが必要なのか？

日時：平成31年4月7日(日) 12:30～18:00

会場：広島大学東千田キャンパスA棟5F 501教室

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/access/sendai>

現代の世界では、人とモノと情報がグローバルに行き交います。しかしその陰で、弱い立場にある多くの人の存在が公然と無視されてもいます。たとえば虐待されている子どもが声をあげても大人たちは耳を傾けず、虐待が見逃されてしまうのも、その一つの表れです。

そこに欠けているのは、何よりもダイアログ (Dialogue) です。ダイアログは単なる「対話」ではありません。そこで重要なのはむしろ場や複数性であり、そのなかでいかに他者の声を聴いて実際に物事を変えていくのかというダイナミックな実践のプロセスなのです。

今回は、「未来語りのダイアログ」の創始者で、医療・福祉・子どもの教育といった対人支援、企業や自治体における組織づくりや地域づくりなど様々な領域で多大な成果を挙げてこられたアーンキル氏と、子どもを支援する「ファミリー・グループ・カンファレンス」の第一人者であるヘイノ氏をフィンランドからお招きし、ダイアログの原理とそれを具体的に実践するための方法・やり方についてお聞きします。

対人支援の現場で働いている方、困っている家族やご本人、自分の組織や地域に問題があるがどうしたらいいかわからなくて悩んでいる方をはじめ、ご関心のある皆様のご来場を心よりお待ちしております。

講演者：トム・エーリク・アーンキル氏
タルヤ・ヘイノ氏

(講演は英語で行われますが、通訳がつきます)

プログラム

- 12:30-12:40 趣旨説明 松嶋 健(広島大学大学院社会科学部研究科准教授)
- 12:40-14:10 「ダイアログとは何か？」(講演と実践)トム・エーリク・アーンキル
- 休憩
- 14:20-15:40 「関係者が複数かわる複雑な状況における未来語りのダイアログ」
トム・エーリク・アーンキル
- 休憩
- 16:00-17:30 「脆弱な立場におかれた子どもたちの安全のための
ファミリー・グループ・カンファレンス」タルヤ・ヘイノ
- 17:30-18:00 質疑応答



参加費無料
申込不要

どなたでも参加できます。直接会場にお越しください。

講演者プロフィール



トム・エーリク・アーンキル(Tom Erik Arnkil)
1950年生まれ。社会科学博士。フィンランド国立保健福祉研究所 (THL) 教授として長年、サイコソーシャル・ワークにおけるネットワーク・アプローチとダイアログ実践の研究開発責任者を務めた。30年にわたるその成果が、ED(Early Dialogue 早期ダイアログ)およびAD(Anticipation Dialogue 未来語りのダイアログ)に結実している。定年退官後はTHL名誉教授として、世界各地でダイアログの普及のための研修を行なっている。その貢献に対して昨年、アメリカ家族療法学会賞をオープンダイアログの開発者ヤーコ・セイツラとともに受賞。日本語で読める文献として、『オープンダイアログ』(共著、日本評論社、2016年)、『あなたの心配ごとを話しましよう～響きあう対話の世界へ』(共著、日本評論社、2018年)がある。



タルヤ・ヘイノ(Tarja Heino)
社会科学博士。タンペレ大学で教鞭をとる他、THL教授としてフィンランドにおける児童保護実践の研究開発責任者を務めている。35年にわたり国の児童保護のプログラムとガイドラインの作成に関わり、子どもの権利を促進したその仕事に対して二度、フィンランド政府から賞を受けている。また、ネットワーク・アプローチとダイアログ実践の促進にも積極的で、特に子どもの視点からのファミリー・グループ・カンファレンス(Family Group Conferences)に関しては、フィンランドおよび北欧における第一人者として知られている。児童保護のためのNGOであるPesäpuuの代表も務める。

主催： 広島大学ダイバーシティ研究センター
広島大学インキュベーション研究拠点「ダイバーシティ&インクルージョン科学の構築と実践のための研究拠点」

協力： NPO法人 ダイアログ実践研究所

お問合せ： ダイバーシティ研究センター E-mail: diversity-center@hiroshima-u.ac.jp

